

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 令和 5 年 10 月 27 日 (18 : 30 ~19 : 30)

1. 初期支援 (はじめのかかわり)

メンバー 9 人

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	前回の課題について取り組みましたか?	0 人	3 人	4 人	2 人	9 人

前回の改善計画
個々の職員が知り得た情報についてはアセスメントシートを活用し、その都度情報を共有していく。また家族支援に関しては、送迎時は電話対応での話以外でも関わって話をする機会をつくり、家族にも積極的に情報収集を行っていく。
前回の改善計画に対する取組み結果
アセスメントシートにて情報収集を行い、普段の会話の中からご利用者が今何を求めているのか把握し、支援の方向性を検討することができた。しかし、情報共有に関して職員間での認識の差があり、送迎時に家族様への情報収集があまり出来ていなかった。

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	本人の情報やニーズについて、利用開始前にミーティング等を通じて共有していますか?	1	6	1	1	9
②	サービス利用時に、本人や家族・介護者が、まず必要としている支援ができていますか?	1	7	0	1	9
③	本人がまだ慣れていない時期に、訪問や通いでの声掛けや気遣いができていますか?	2	6	0	1	9
④	本人を支えるために、家族・介護者の不安を受け止め、関係づくりのための配慮をしていますか?	1	3	3	2	9

できている点	200 字程度で、できていることと、その理由を記入すること
	ご利用者へのお声掛けは意識してするようにしている。常にその方と話をし、今求められていることは何かを考え傾聴するよう努めている。送迎の際、ご家族の話を傾聴できている。新規ご利用者は、積極的に話しかけ輪に入れるようにしている。また、新規利用及びご家族に対しては、できるだけお声掛けを行い、少しでも不安を取り除けるよう配慮している。利用開始前には、アセスメントシート等でご利用者の状態を把握してお会いするように努めている。

できていない点	200 字以内で、できていないことと、その理由を記入すること
	ご利用者全員ではなく、ニーズや支援内容をしっかり把握できている方とそうでない方、偏りがある。限られた時間で全員の方とゆっくり関わることが難しい。アセスメントシートの存在を忘れている。情報共有が出来ていないときがあり職員間で認識に差がある。家族に対しての情報収集は不足している部分がある (特に新規利用)。

次回までの具体的な改善計画	(200 字以内)
	現在のご利用者、初期支援も含めアセスメントシート (個人ファイル) を全職員月 1 回は確認し、個々の状態の把握に努める。また、初期支援ではご家族との関わりを密に行い、ご利用時の様子、ご自宅での様子について情報共有を行っていく。

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 令和 5 年 10 月 27 日 (18 : 30 ~19 : 30)

2. 「～したい」の実現 (自己実現の尊重)

メンバー 9 人

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	前回の課題について取り組みましたか?	1 人	6 人	2 人	0 人	9 人

前回の改善計画
利用者より発したメッセージを各職員が拾い上げていき、アセスメントシートや記録を活用し情報共有を行っていく。また、個別に関わる時間を増やせるように、職員間での業務分担を行うようにする。
前回の改善計画に対する取組み結果
毎月のミーティングにて個別カンファレンスを実施し、普段の会話から「～したい」と意見があった場合は、意向に沿い実現に向けて検討した。しかし、一部の職員でしか関わることができなかつたり、「～したい」内容についてのアセスメントができていなかった。

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	「本人の目標 (ゴール)」がわかっていますか?	0	4	5	0	9
②	本人の当面の目標「～したい」がわかっていますか?	2	4	3	0	9
③	本人の当面の目標「～したい」を目指した日々のかかわりができていますか?	1	4	4	0	9
④	実践した (かかわった) 内容をミーティングで発言し、振り返り、次の対応に活かしていますか?	1	6	2	0	9

できている点	200 字程度で、できていることと、その理由を記入すること
	会話の中から「～したい」を拾い、職員間で情報共有に努めた。したいことが一人でできないときは、一緒にできるよう努めている。ご利用者の発したメッセージや気持ちの変化は記録に残して情報共有をしている。アセスメントシートやミーティング等での情報を元に目標を目指した関わり方や支援内容を検討することができた。

できていない点	200 字以内で、できていないことと、その理由を記入すること
	職員によっては、ご利用者の「～したい」の支援に関わるのが少なかった。また、アセスメントシートに追加情報の記入ができていない等、記録の不足があった。その為、職員によってはサービス提供の内容に差があった。時間、人数的に個別に関わる時間を調整するのが難しい時もあり、ご利用者の「～したい」という実現を実施することができない時もあった。

次回までの具体的な改善計画	(200 字以内)
	初期支援以降、ご利用者・ご家族との関係が築くことができたならセンター方式シートを活用し、更なるアセスメント、したいことを詳しく把握し、「～したい」ことの実現に努めていく。

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 令和 5 年 10 月 27 日 (18 : 30 ~19 : 30)

3. 日常生活の支援

メンバー 9 人

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	前回の課題について取り組みましたか?	2 人	6 人	1 人	0 人	9 人

前回の改善計画	利用者との関わる時間を個々で増やしていき、今後も関係性を深めていくように努める。また、以前の暮らし、今の暮らしと本人の生活を把握できるよう、小さな情報でも拾っていきけるよう努める。アセスメントシートを活用していくよう職員一人一人が心がけていく。
前回の改善計画に対する取組み結果	ご利用者のちょっとした言葉、表情の変化に注意し、関わる時間や方法を検討し、個々の支援に繋げることができた。以前の暮らしについてのアセスメント不足があり、ご家族の思いや介助者側の主観で支援を行っているところもあった。

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	本人の自宅での生活環境を理解するために「以前の暮らし方」が 10 個以上把握できていますか?	0	0	9	0	9
②	本人の状況に合わせた食事や入浴、排せつ等の基礎的な介護ができていますか?	1	8	0	0	9
③	ミーティングにおいて、本人の声にならない声をチームで言語化できていますか?	1	7	1	0	9
④	本人の気持ちや体調の変化に気づいたとき、その都度共有していますか?	3	6	0	0	9
⑤	共有された本人の気持ちや体調の変化に即時的に支援できていますか?	3	5	1	0	9

できている点	200 字程度で、できていることと、その理由を記入すること
ご利用者の変化や気づいたことは、職員間で共有し対応するよう話し合うことができた。残存機能を活かしながら本人の思いを聞き入れ、支援している。また、体調の変化があればすぐに情報共有をして対策をとっている。ご本人との関わりの中での会話や伝達等により共有し、適切な支援へ繋がるよう努めている。	

できていない点	200 字以内で、できていないことと、その理由を記入すること
アセスメントシートの活用が出来ていない。以前の暮らし方は把握できていない所の方が多い。介助者側の主観や、ご本人よりご家族の希望をくみ取って支援しているところもある。以前の暮らし方について 10 個以上把握できていない為、以前の暮らしについてももう少し知る必要がある。	

次回までの具体的な改善計画	(200 字以内)
ご利用者からの声を待つのではなく、普段の会話で聞き取った情報を元に職員から提案し、ご利用者の意欲を引き出していく。以前の暮らし方で新しい情報があれば、記録に残しアセスメントシートへ追加し、情報収集、情報共有に努めていく。	

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 令和 5 年 10 月 27 日 (18 : 30 ~19 : 30)

4. 地域での暮らしの支援

メンバー 9 人

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	前回の課題について取り組みましたか?	1 人	人	4 人	4 人	9 人

前回の改善計画	利用者を取り巻く地域住民とのコミュニケーションを行うように働きかけ、もう少し顔なじみの関係を作っているよう努力する。
前回の改善計画に対する取組み結果	地域との関わりに関しては、ご利用者、ご家族共に確認不足であり、把握に努めることができなかった。また、地域行事の把握不足もあり、事業所から地域へ出向く機会がなかった。

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	本人のこれまでの生活スタイル・人間関係等を理解していますか?	1	5	1	2	9
②	本人と、家族・介護者や地域との関係が切れないように支援していますか?	1	3	2	3	9
③	事業所が直接接していない時間に、本人がどのように過ごしているか把握していますか?	0	2	4	3	9
④	本人の今の暮らしに必要な民生委員や地域の資源等を把握していますか?	0	0	4	5	9

できている点	200 字程度で、できていることと、その理由を記入すること
<p>ご利用者によっては地域活動への参加を促したり、外出支援（買い物・病院受診）等に努めている。地域との関わりについて、普段の会話から得たものを職員間で共有できた。</p> <p>生活スタイル、人間関係等についてはご利用者との会話での内容、情報等によって状況を理解するよう心掛けている。</p>	

できていない点	200 字以内で、できていないことと、その理由を記入すること
<p>ご利用者が地域のサロンやお店、理髪店などへの参加ができているかご家族様への確認が少なかった。</p> <p>地域の方と会う機会が少ないことや、関わっていない時間の過ごし方は把握できていないところがある。</p> <p>砥部町についての知識が少なく、地域の方々とのコミュニケーションも積極的に行えていなかった。</p>	

次回までの具体的な改善計画	(200 字以内)
<p>「広報とべ」、「とべ議会だより」を参考に、地域活動の内容や砥部町の動きを把握する。可能なら、ご利用者と一緒に地域のサロンやボランティア活動へ参加し、地域に根差した事業所を目指す。また、法人内事業所間での交流も行っていく。</p>	

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 令和 5 年 10 月 27 日 (18 : 30 ~19 : 30)

5. 多機能性ある柔軟な支援

メンバー 9 人

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	前回の課題について取り組めましたか?	0 人	0 人	3 人	6 人	9 人

前回の改善計画	利用者全員の自宅を中心とし、その周りに何があるのか、地域資源があるのかどうかを把握できるように職員全員で地図を作成し、職員間で共有をする。
前回の改善計画に対する取組み結果	全ご利用者をとりにくく地域資源の把握はできておらず、地図の作成に至らなかった。

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	自分たち事業所だけで支えようとせず、地域の資源を使って支援していますか?	0	2	5	2	9
②	ニーズに応じて「通い」「訪問」「宿泊」が妥当適切に提供されていますか?	2	6	0	1	9
③	日々のかかわりや記録から本人の「変化」に気づき、ミーティング等で共有することができていますか?	3	5	0	1	9
④	その日・その時の本人の状態・ニーズに合わせて柔軟な支援ができていますか?	3	4	1	1	9

できている点	200 字程度で、できていることと、その理由を記入すること
ご利用者の状態や家庭状況・意向によって、通い・訪問・泊りが提供できている。地域の方に対しては挨拶を行う等、コミュニケーションをとるようにしている。日々の記録やミーティング等により、個別支援に必要なことを都度話し合い確認している。	

できていない点	200 字以内で、できていないことと、その理由を記入すること
地域資源について職員間で情報共有があまりできていない。ご利用者全員の自宅回りに地域資源があるか把握できていない。地域資源に関しての情報が抜けている。柔軟な支援がすぐにできないことがある。	

次回までの具体的な改善計画	(200 字以内)
運営推進会議や砥部地区福祉活動推進懇談会へ役職者だけでなく一般職員も参加し、地域住民との関わりや地域資源についての把握に努める。また、ご利用者の希望があれば出来る限りすぐに計画を立て、柔軟な支援が出来るよう努めていく。	

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 令和 5 年 11 月 27 日 (18 : 00 ~ 19 : 00)

6. 連携・協働

メンバー 9 人

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	前回の課題について取り組みましたか?	0 人	2 人	3 人	4 人	9 人

前回の改善計画	地域連携に関しての会議などに積極的に参加するように努力する。誰でも気軽に立ち寄れる事業所になれるよう目指していく。
前回の改善計画に対する取組み結果	今年度に入り、運営推進会議による集合開催や砥部地区福祉活動推進懇談会へ参加し地域会議の開催、参加ができた。しかし、地域行事の把握が行えておらず、地域の方々との関わりは少なかった。

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	その他のサービス機関 (医療機関、訪問看護、福祉用具等の他事業所) との会議を行っていますか?	1	0	2	6	9
②	自治体や地域包括支援センターとの会議に参加していますか?	1	1	0	7	9
③	地域の各種機関・団体 (自治会、町内会、婦人会、消防団等) の活動やイベントに参加していますか?	0	2	0	7	9
④	登録者以外の高齢者や子ども等の地域住民が事業所を訪れますか?	1	2	1	5	9

できている点	200 字程度で、できていることと、その理由を記入すること 運営推進会議に参加して、地域の方や他の事業所の方々と交流し、意見交換することができた。また地域との関わりでは、事業所の隣にある畑で作業をしている方々とコミュニケーションをとることができ、地方祭や子ども会のイベント行事 (いのこ) が施設へ来て頂き、ご利用者が参加することができた。
--------	---

できていない点	200 字以内で、できていないことと、その理由を記入すること 地域住民との関わりは少ないと感じる。コロナウイルス感染対策もあり、地域の方々が事業所の中へ来ていただくことが難しい。また、地域でのイベントや老人会、サロン等のような活動があるか情報の把握ができていない。
---------	---

次回までの具体的な改善計画	(200 字以内) 地域のイベントやサロンの情報を広報誌や地域会議に参加し、情報を集めご利用者と共に参加し地域との関わりを増やしていく。
---------------	---

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 令和 5 年 11 月 27 日 (18 : 00 ~ 19 : 00)

7. 運営

メンバー 9 人

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	前回の課題について取り組みましたか?	0 人	2 人	5 人	2 人	9 人

前回の改善計画	コロナ禍ではあるが、その中でも地域住民や家族との交流の機会の場を提供できるよう努める。常に職員間での意見交換ができるような職場作りをしていく。
前回の改善計画に対する取組み結果	職員間で意見交換は常にできていた。だが、ご家族との交流においては送迎時がほとんどであり一定の職員しか交流ができていない。地域住民と交流する機会も少なかった。

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	事業所のあり方について、職員として意見を言うことができますか?	1	4	3	1	9
②	利用者、家族・介護者からの意見や苦情を運営に反映していますか?	0	5	2	2	9
③	地域の方からの意見や苦情を運営に反映していますか?	0	2	2	5	9
④	地域に必要とされる拠点であるために、積極的に地域と協働した取組みを行っていますか?	0	0	5	4	9

できている点	200 字程度で、できていることと、その理由を記入すること ミーティングの際、また必要時には職員間でよく意見交換ができています。
--------	---

できていない点	200 字以内で、できていないことと、その理由を記入すること ご利用者、ご家族からの意見を引き出すことが少ない為、意見を反映できていないことがある。また、意見や苦情に対して一人一人ゆっくりと話を聞けていない。地域住民やご家族と交流する機会も少なかった。
---------	---

次回までの具体的な改善計画	(200 字以内) ご利用者、ご家族との関わりについて、担当者会議にケアマネジャーと、もう一人職員と一緒に参加しご家族と関わる機会をつくる。また、訪問時にご家族との会話の中でこちらから今気になることはないか積極的に話かけ、職員とご利用者、ご家族とのコミュニケーションの場を増やしていく。
---------------	--

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 令和 5 年 11 月 27 日 (18 : 00 ~ 19 : 00)

8. 質を向上するための取組み

メンバー 9 人

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	前回の課題について取り組みましたか?	0 人	3 人	5 人	1 人	9 人

前回の改善計画
コロナ禍ではあるが、オンラインなどを活用し外部研修や自己研鑽の為の研修に参加できる機会を設け、スキルアップの向上に各自取り組んでいく。リスクマネジメントについて日頃から意識を行う。
前回の改善計画に対する取組み結果
内部研修への参加はできているが、外部研修は積極的な受講は少なかった。個々のスキルアップも全体的に取り組みが少なかった。ミーティング等でご利用者個別でのリスクマネジメントの検討は行えた。

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	研修 (職場内・職場外) を実施・参加していますか	1	6	0	2	9
②	資格取得やスキルアップのための研修に参加できていますか	0	3	4	2	9
③	地域連絡会に参加していますか	0	1	1	7	9
④	リスクマネジメントに取り組んでいますか	1	4	2	2	9

できている点	200 字程度で、できていることと、その理由を記入すること
	職場内の研修に参加できており、外部研修を受講した職員は事業所職員へ伝達研修も行えた。また、離設訓練を実施し、リスクマネジメントに努めることができた。

できていない点	200 字以内で、できていないことと、その理由を記入すること
	一定の職員しか外部研修へ参加できていなかった。オンラインを活用しての外部研修、スキルアップ向上の為の取り組みもあまりできていなかった。離設訓練以外、リスクマネジメントへの取り組みは不十分だった。

次回までの具体的な改善計画	(200 字以内)
	事業所内で、南海トラフを想定した研修、危険予知トレーニングにて日頃のケアでどこに危険が潜んでいるのか話し合う。スキルアップの為に、愛ケアが主催する外部研修も活用する。

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 令和 5 年 11 月 27 日 (18 : 00 ~ 19 : 00)

9. 人権・プライバシー

メンバー 9 人

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	前回の課題について取り組みましたか?	1 人	5 人	3 人	0 人	9 人

前回の改善計画
洗濯物の干す場所については、職員が配慮を各自行っていく。成年後見制度については、勉強会を開催できるようにする。
前回の改善計画に対する取組み結果
洗濯物及び、入浴や排泄等に関するプライバシーの配慮はできている。成年後見制度についての勉強会は実施できていない。

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	身体拘束をしていない	9	0	0	0	9
②	虐待は行われていない	9	0	0	0	9
③	プライバシーが守られている	6	3	0	0	9
④	必要な方に成年後見制度を活用している	0	0	0	9	9
⑤	適正な個人情報の管理ができている	5	4	0	0	9

できている点	200 字程度で、できていることと、その理由を記入すること
	ご利用者の尊厳は大切にし、出来るだけプライバシーが守れるよう努めていること、また個人情報のファイルは鍵のついた棚へ保管ができている。身体拘束、虐待にあたる行為については行っていない。洗濯物については十分配慮できており、排泄や入浴は個別対応にて実施している。

できていない点	200 字以内で、できていないことと、その理由を記入すること
	制度について職員間で話ができていない。成年後見制度を利用しているご利用者がいない為、勉強会をする機会が作れていない。

次回までの具体的な改善計画	(200 字以内)
	成年後見制度について、事業所内で研修を行い基礎から学んでいく。

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社会福祉法人砥部寿会	代表者	菅原哲雄	法人・事業所の 特徴	「住み慣れた地域でその人らしい生活を送るための介護サービスを提供します」「多様化する生活ニーズに対応し、利用者とその家族を支えます」「多世代が集まる居場所となり地域住民と共に支え合います」を方針とし、自宅で生活をする利用者やその家族に寄り添い、「通い」「訪問」「泊り」を組み合わせたサービス提供を目指す事業所です。
事業所名	小規模多機能ホーム 砥部オレンジ荘	管理者	岡本将宗		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	1人	2人	0人	0人	1人	1人	9人	0人	15人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	ご利用者本人の情報収集が依然と少なく、話ができる環境作りもできないため、少しでも家族を交えての話ができる場面提供を行うようにする。アセスメントシートも活用し、知り得た情報を職員全員で共有していく。	ご利用者の以前の暮らしに関する情報収集が少なかつた。また、ご家族とのコミュニケーションについては一定の職員としか関わる機会がなかつた。ご利用者の知り得た情報については、職員間で共有が出来ていた。	職員の働く期間により、評価が高かったり低かったりしていると感じた。また、評価に対する取り組みを把握した上で、全体で話し合えばより良いと思う。評価自体は、職員全員で取り組まれていると思われる。	ご利用者の以前の暮らしを把握すること、またセンター方式を活用して利用者主体のサービス提供ができるよう、情報収集し職員間で共有をしていく。
B. 事業所のしつらえ・環境	ご利用者にとって、畑やウッドデッキを使ったプランターで花を育てる活動については、今後も行っていく。また、室内での居心地のいい空間作りについては、職員全員で模索をし、いろんな方が落ち着ける空間作りを目指していく。	畑やウッドデッキにてご利用者と一緒に野菜作りや花を育てることが出来た。居心地のいい空間作りについては、ウッドデッキにて季節を感じながら利用者、職員との関係性の構築が出来た。しかし、リビングで過ごされることも多くあり、開放的な活用まで至ることが出来なかつた。	事業所は清潔感があり、ウェルカムボードは利用者と一緒に作り、共に季節を感じて頂けているのではないと思う。季節に応じた野菜も作り、利用者にとって、いい環境だと思う。	リビングからウッドデッキへ自由に行き来が出来る開放的な空間を作り、園芸や農作業を行うことで、楽しみがもてる空間を目指していく。
C. 事業所と地域のかかわり	近隣住民と顔見知りになるなど、積極的に挨拶などを行い、ウッドデッキを使った活動など気軽に地域の方と交流できる場を作っていく。	地域住民の方へ積極的なあいさつを行い、話しやすい関係性を作ることが出来た。ウッドデッキを活用し、地域と方と交流することは出来なかつた。	地域の方とあいさつにてコミュニケーションがとれていると思う。そこから相談しやすい関係性や地域との繋がりが出来てくると思う。	サロンやカフェ等地域の行事やイベントへご利用者と参加し、地域交流を図り地域住民との関わりや事業所を知ってもらうことで、相談しやすい関係性を目指していく。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	近隣住民への挨拶は今後も続けていき、地域の方との関係性の構築を行っていく。	住民座談会に参加し、社協や包括、民生児童委員等地域住民の方との意見交換やご利用者の支援内容について話し合うことができた。地域の行事やイベントに積極的な参加は出来ていない。ご近所の心配な方への関わりについては、当事業所登録ご利用者以外にも実態把握事業にて、訪問を行っている。	住民座談会への参加で、地域住民との交流や、事業所を知ってもらう働きが出来ていると思う。地域の方々も事業所の職員が参加することで相談しやすい環境が出来てくると思う。	住民座談会等へ定期的に参加し、地域の実情やイベント等の情報を把握する。そして利用者の以前の暮らしや、現在の望む暮らしを理解し、一緒に地域へ出向いていく。
E. 運営推進会議を活かした取組み	広報誌を活用し、運営推進会議に参加される方や地域の方に向けて情報発信を行っていく。	今年度は集合開催にて運営推進会議を実施し、広報誌の活用だけでなく実際にパワーポイントを使用し説明をしながら活動状況の報告を行うことが出来た。	写真にて活動内容を報告してくれていたもので、分かりやすかつた。利用者のしたいことを柔軟に取り組んでいると思う。	運営推進会議の活用を幅を広げ、地域住民から出た意見を一緒に考え、必要に応じ行政機関と連携をとり、改善を図っていく。
F. 事業所の防災・災害対策	年に2回の防災訓練には、各職員が参加するようにし、砥部オレンジ荘の防災・災害計画及びBCP計画を職員間で共有し、対応できるようにする。	年2回実施している防災訓練には、各職員が参加を行っている。防災訓練に関して運営推進会議にて報告が出来ておらず、地域の方々や防災に関する情報共有が出来ていなかった。またBCP計画が職員間で共有出来ていなかった。	今後も災害時には助けになってくれる施設であって欲しい。施設での防災訓練の取り組みが分からない、地域住民が参加することも少ないのではないか。	運営推進会議にて防災訓練の報告を行い、砥部オレンジ荘の訓練内容を理解して頂く。また地域の方への訓練参加の呼びかけ及び砥部町総合防災訓練へ参加することで、地域と支え合える関係性をつくる。

